

## 研究課題名

外来化学療法を受けるがん患者の苦痛に対するニーズとそのサポート

## 研究概要

### 【目的】

化学療法を受けている患者の気がかりとその要因については、「がん化学療法気かかり評定尺度(CCRS)」を用いての研究などで明らかになっている。その気かかりは、家族や親戚、友人、医師や看護師からのサポートによって患者の治療に対する意欲を維持できる原動力になっているとも言われている。

そこで、本研究は当院の通院治療センターで化学療法を受けるがん患者を対象とし、「がん化学療法気かかり評定尺度(CCRS)」を使用し、「気がかり」を明らかにし、それぞれの「気がかり」に対してのニーズの有無、また、サポートが得られているのかを明らかにしていきたい。

### 【研究の種類・デザイン】

CCRSを用いたアンケート調査を無記名で行い、それぞれの項目に対して相談のニーズと相談相手の有無の現状について選択回答とする。

1) 基本属性として以下の①～⑤について調査する。

①性別(男性・女性)

②年齢(20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳代、80歳以上)

③配偶者の有無

④同居家族の有無

⑤診断された時期

2) 気かかりの表出の有無としてどの程度気かかりを他者に話しているについて調査する。それぞれの評価は、「1:話したくない」「2:話したいが話せない」「3:よく話す」の3段階とする。

研究の主旨及び方法、倫理的事項などについて説明後、研究協力が得られた患者に対しアンケート用紙を配布する。アンケート用紙は、外来通院治療センターで配布し、同日もしくは次回治療時に回収とする。通院治療センターに回収箱を設置していく予定。

### 【対象患者】

海南病院において、外来通院治療センターを利用した患者すべて

**【研究期間】**

倫理委員会通過後(2014年10月開始予定)～12月の約2ヶ月間にわたりアンケート調査を実施